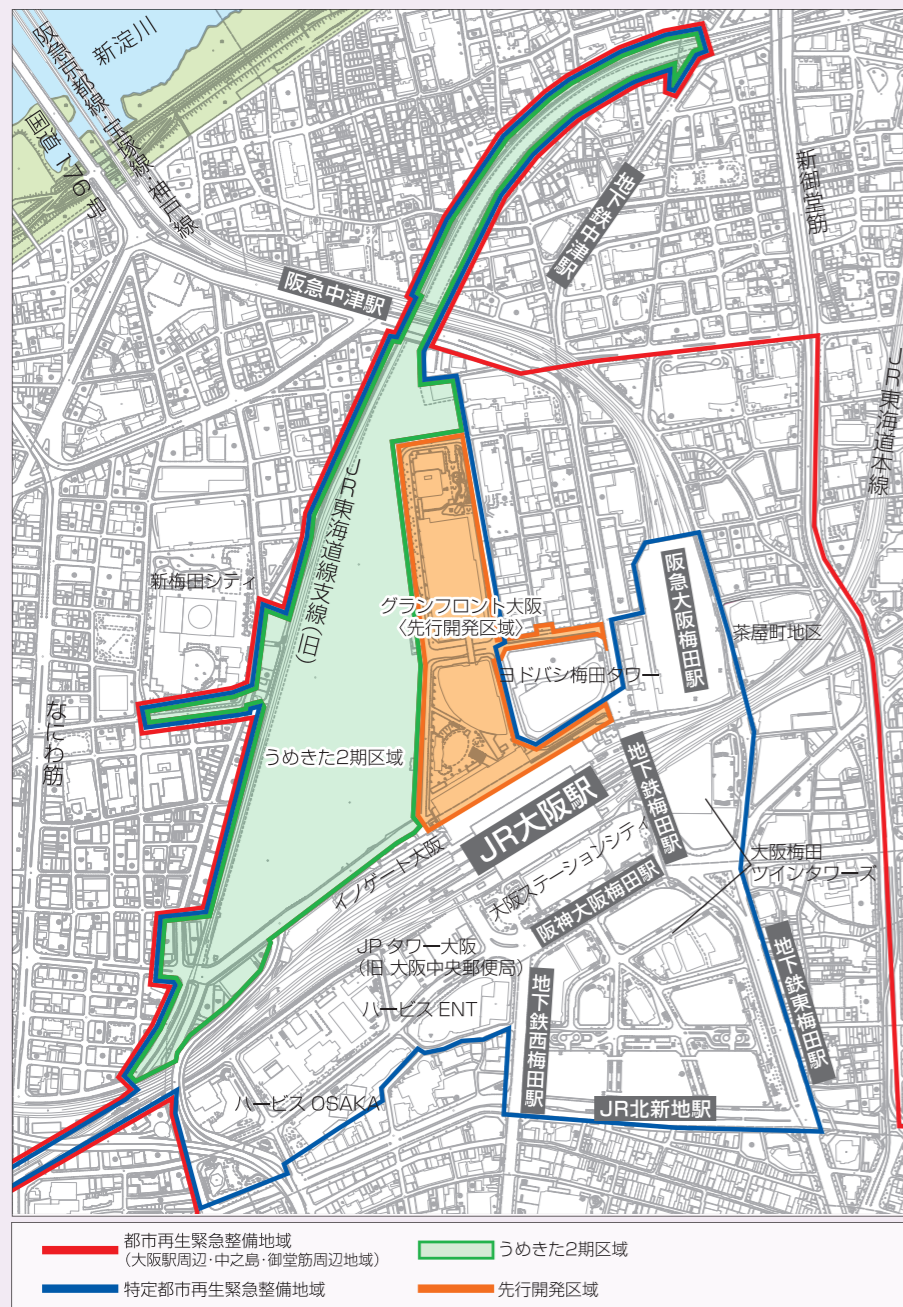
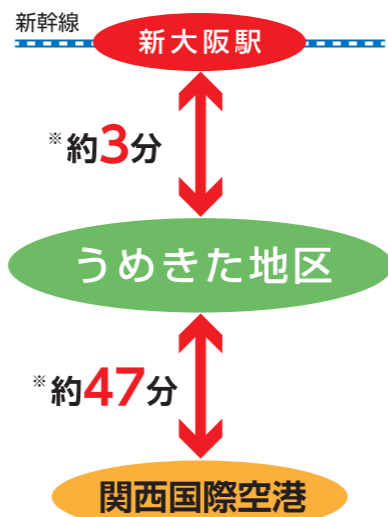


■ 周辺状況図



■ うめきた地区のポテンシャル

※大阪駅から関西国際空港までの所要時間がJRなら約70分かかりましたが、JR東海道線支線地下化および新駅設置により約20分短縮されました。



Topic

新駅からJR難波駅および南海本線新今宮駅をつなぎ、新大阪や関西国際空港へのアクセスが向上するにわ筋線も整備される予定です。(2031年開業予定)

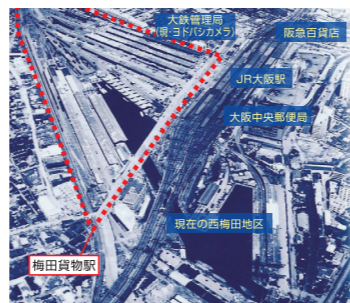
うめきた地区周辺の歴史

◎ 鉄道の開通と共に町が発展 (明治～大正)

大阪神戸間の鉄道開通で大阪駅が開設されたのは明治7年。当時の梅田界限は、今のにぎわいから想像もつかない、人気のない湿地帯であった。このことは、うめだの語源が「埋めた」であることから推測できる。

◎ 鉄道貨物と水上貨物が集積される一大拠点として発展(昭和)

昭和3年12月1日に梅田貨物駅として貨物取扱いを開始し、85年の歴史をもっていた。開駅当時から昭和30年代まで当駅には堂島川からひいた「掘割水路」があり、かつては鉄道貨物と水上貨物が集散される一大拠点であった。



独立行政法人 都市再生機構

西日本支社 都市再生業務部  
〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目13番1号 大阪梅田ツインタワーズ・サウス21階  
TEL: 06-4799-1172

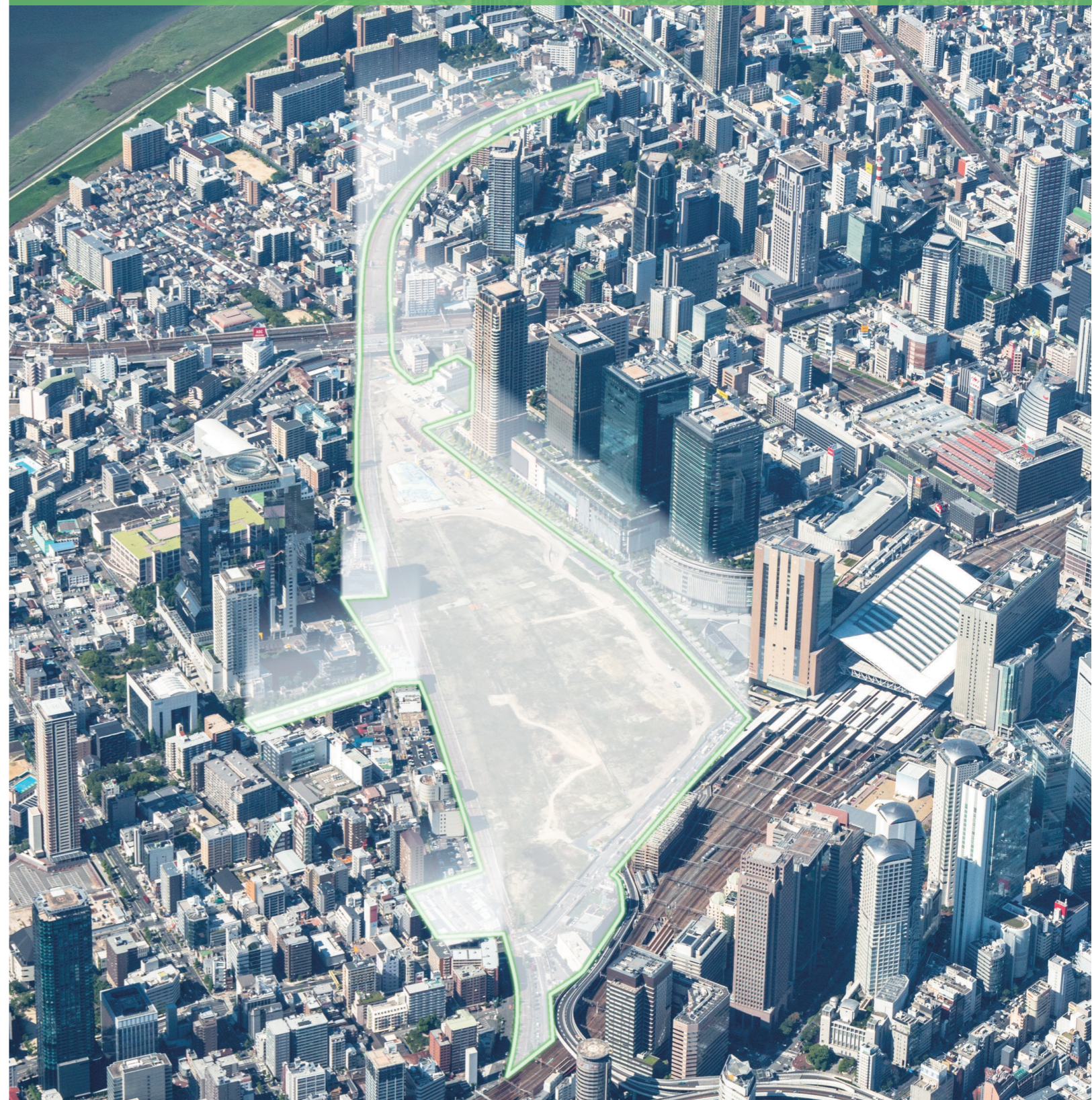
URうめきた

検索



umekita2ur

# UMEKITA Project 2nd Stage

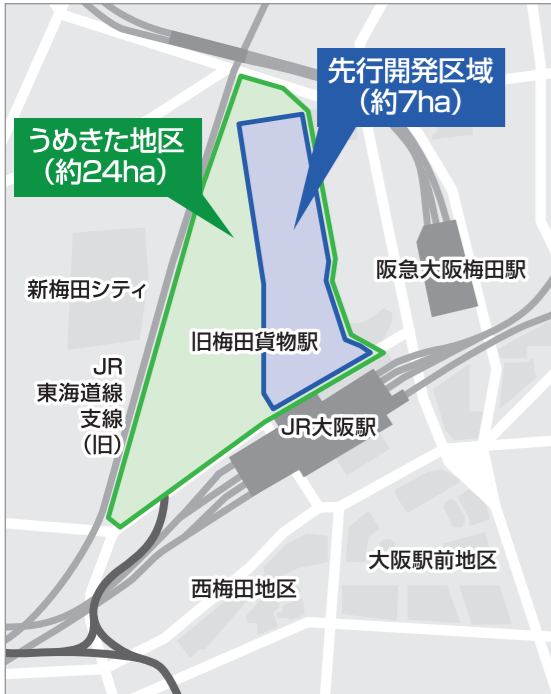


街に、ルネッサンス



大阪の“都心に残された最後の一等地”うめきたに  
新しいまちが生まれるまで。

■ 区域図



■ 地区の概要

- 所在地：大阪市北区大深町ほか
  - 地区面積等：旧梅田貨物駅区域 約24ha (先行開発区域 約7ha)
  - 都市計画等：都市再生緊急整備地域 (大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域)  
商業地域、防火地域 (容積率800%・600%/建ぺい率80%)  
航空法による高さ制限  
大阪駅北地区地区計画  
都市再生特別地区 (大阪駅北地区：容積率の最高限度1600%・1150%) (うめきた2期中央地区：容積率の最高限度1100%・650%)  
特定都市再生緊急整備地域 (大阪駅周辺地域)  
うめきた2期地区地区計画
- 〈令和6年(2024年)4月現在〉

■ 事業の経緯

S62	1987年	国鉄改革に伴い梅田貨物駅用地を国鉄清算事業団へ継承
H14	2002年	都市再生緊急整備地域の指定(約490ha)〈7月〉 国際コンセプトコンペの実施(平成14年9月~平成15年3月)
H15	2003年	大阪市が「大阪駅北地区全体構想」を策定〈10月〉
H16	2004年	「大阪駅北地区まちづくり基本計画」策定(大阪市)〈7月〉
H17	2005年	先行開発区域都市計画決定(区画整理・道路・広場)〈12月〉
H18	2006年	土地区画整理事業認可〈6月〉
H18	2006年	先行開発区域都市計画決定(地区計画・用途地域変更等)〈2月〉
H18	2006年	A・B・Cブロック事業者決定(5月・11月)
H18	2006年	地区名称を公募により「うめきた/梅北」に決定〈2月〉
H23	2011年	うめきた2期区域都市計画決定 (区画整理・道路・交通広場・都市高速鉄道)〈4月〉
H23	2011年	関西イノベーション国際戦略総合特区に指定〈12月〉
H24	2012年	特定都市再生緊急整備地域に指定(約82ha)〈1月〉
H24	2012年	一般社団法人グランフロント大阪TMO設立(5月)
H24	2012年	大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会設立(9月)
H25	2013年	先行開発区域換地処分公告(3月)
H25	2013年	グランフロント大阪(先行開発区域)まちびらき(4月)
H25	2013年	うめきた2期区域民間提案募集(1次募集)開始(10月)
H26	2014年	民間提案優秀者公表(20者)〈3月〉
H26	2014年	うめきた2期区域まちづくり検討会発足(6月)
H26	2014年	JR東海道線支線地下化事業認可(1月)
H26	2014年	「うめきた2期区域まちづくりの方針」決定(3月)
H27	2015年	大阪府・大阪市からUR都市機構へ事業要請(5月)
H27	2015年	鉄道・運輸機構と土地売買契約締結(10月)
H27	2015年	土地区画整理事業認可(11月)
H27	2015年	JR東海道線支線地下化事業の工事着手(11月)
H28	2016年	区画整理の工事着手(7月)
H29	2017年	都市計画決定(地区計画、用途地域変更、道路変更)〈1月〉
H29	2017年	うめきた2期開発事業者募集開始(12月)
H30	2018年	うめきた2期開発事業者決定(7月)
H30	2018年	都市計画決定(都市公園)〈3月〉
H31/R1	2019年	なにわ筋線鉄道事業許可(7月)
H31/R1	2019年	土地区画整理事業計画変更(9月)
R2	2020年	都市計画事業承認(都市公園)〈7月〉
R2	2020年	民間開発工事着工(12月)
R4	2022年	公園工事本格着工(5月)
R4	2022年	一般社団法人うめきた未来イノベーション機構設立(9月)
R4	2022年	一般社団法人コ・クリエーションジェネレーター設立(9月)
R5	2023年	JR大阪駅(うめきたエリア)開業(3月)
R5	2023年	一般社団法人うめきたMMO設立(6月)
R6	2024年	うめきた2期区域 先行まちびらき(9月)

青文字：主に先行開発区域に関する事柄      緑文字：主に2期区域に関する事柄



都市再生のプロデューサーとして。  
実を結んだ、公民連携による民間都市再生。

■ まちづくりの基本方針(まちづくりの5つの柱) ※平成16年(2004年)大阪市策定の「大阪駅北地区まちづくり基本計画」より

世界に誇る  
ゲートウェイづくり

賑わいとふれあいの  
まちづくり

知的創造活動の拠点  
(ナレッジキャピタル)づくり

公民連携の  
まちづくり

水と緑あふれる  
環境づくり

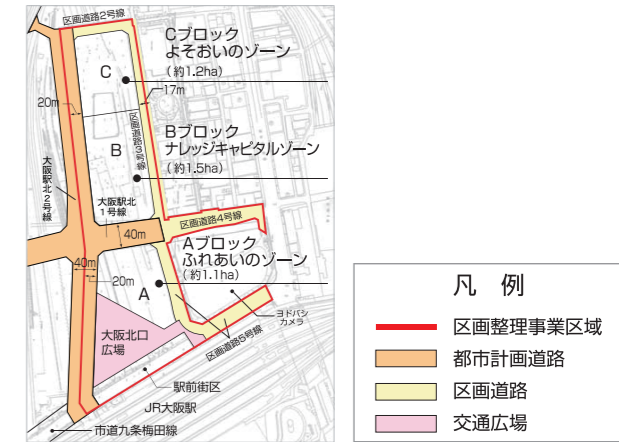
■ 基盤整備

■ 公共施設概要

開発事業者と協働して、質の高い公共施設整備を推進しました。



■ 基盤整備計画

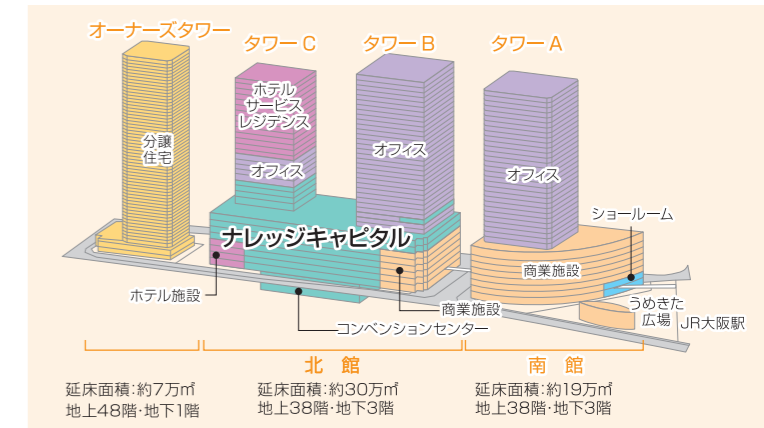


■ 民間誘導

UR都市機構は、まちづくり基本計画、とりわけナレッジキャピタルの実現のために民間の開発事業者を適切に誘導するため、Bブロックの土地を取得し、主に「一体的なまちづくり」、「ナレッジキャピタルの実現・運営組織づくり」、「タウンマネジメント組織の設置」といった開発条件を定め、事業企画提案方式による募集を行いました。

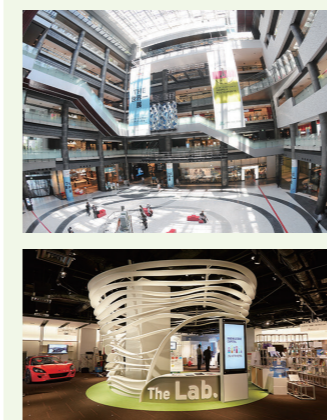


■ 「グランフロント大阪」施設構成概念図



関西経済に多大なインパクトを与える「グランフロント大阪」

■ ナレッジキャピタルを核としたまちづくり

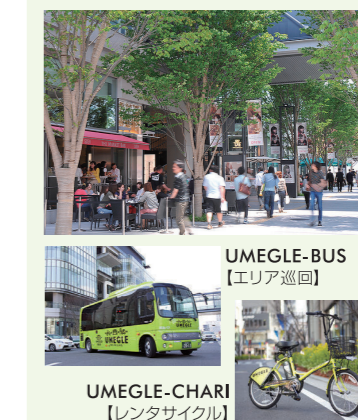


ナレッジキャピタルとは、「感性」と「技術」の融合により「新たな価値」を創出する複合施設であり、グランフロント大阪の中核施設です。  
ナレッジキャピタルの中心に位置する情報発信拠点「ナレッジプラザ」  
ナレッジキャピタルに集まる新しい価値を、展示・発信する来場者参加型の研究所「The Lab.みんなで世界一研究所」

【運営者】

一般社団法人ナレッジキャピタル  
株式会社KMO

■ タウンマネジメント



「オープンカフェ」  
※「道路占有許可の特例制度」を活用した  
公民連携のまちづくり。

【運営者】

一般社団法人グランフロント大阪TMO  
先行開発区域「グランフロント大阪」の一体的な管理・運営を担うタウンマネジメント組織です。上記をはじめとする、まちづくり推進事業とプロモーション事業を運営しています。



URは先行開発区域を含むうめきた全体のまちづくりに総合的に取り組んでいます。

URの役割

計画策定支援

- ◆産官学連携による国際コンセプトコンペ運営
- ◆基本構想及び基本計画策定等の支援

土地取得

- ◆コンセプト実現のための大規模土地の先行取得・長期保有

基盤整備

- ◆土地区画整理事業及び防災公園街区整備事業による都市機能更新、基盤整備
- ◆同時並行で進む各種の関連事業との基盤調整

民間誘導

- ◆民間の自由な発想を最大限発揮しつつ、コンセプト実現を図るための開発事業者の適切な誘導

公民連携の取り組み

うめきた2期区域では、開発条件を定め、事業企画提案方式によって開発事業者募集を行い、国際競争力強化、防災性向上、環境負荷低減、近未来技術の社会実装等、大阪の魅力を高める先進的なまちづくりを公民連携で進めています。

ハードの取り組み

概ね8haの「みどり」を確保

都市公園、西口広場、民間宅地などにおける「みどり」の確保

質の高い公共空間を実現

公共事業と民間提案の連携による、大阪駅前の「顔」づくり

有効避難面積の確保

広域避難地としての役割、帰宅困難者受入などの防災対策機能の強化

ソフトの取り組み

マネジメント

まちの一体的マネジメント

民間宅地に加え、周辺歩道や都市公園を含めた一体的な取り組み

CO<sub>2</sub>削減やエネルギー管理を実現

実用・研究・実証段階技術の積極的な導入

イノベーション

イノベーションプラットフォームを設置・運営

多数の人々の参加や交流による多様な価値を生み出す「場」づくり

公共空間における賑わいやイノベーションを創出

道路占用特許許可や公園施設設置許可等の積極的な活用

スマートシティ・サステナブルなまちの実現

工事ヤードを活用した情報発信

◎暫定利用

2018年度までの約3ヶ年、うめきた2期まちづくりのプロモーション、周辺エリアの賑わい創出及び防災意識の普及啓発が図られるよう、区域内の暫定的な利活用を大阪市等と協力連携して実施してまいりました。緑や花があふれる庭園、防災、環境等に関する市民参加型・体験型のイベント、音楽と大阪の食文化を表現するイベント、エネルギー利用技術の実証フィールドとしての活用など、多様な事業を行いました。



◎うめきた外庭SQUARE

2020年7月から1,000日間、2期区域内にあるUR所有地を活用し、パートナー事業者と共に、うめきた周辺地域への「みどり」の波及に関する先導的的事业として「うめきた外庭SQUARE」を開設。未来のまちづくりに向けた実証実験場として、地域の団体や企業と連携し地域の価値向上に取り組まれました。



～「みどり」と「イノベーション」の融合拠点の実現～  
うめきたから関西へ、国内外へと広がっていくOsaka “MIDORI” LIFE

■コンセプト

希望の杜 — Osaka “MIDORI” LIFE 2070の創造 —

一人ひとりにとっての「幸せな人生」と「希望のある社会」それを実現するために知恵を分かち合う場と社会に参画する機会を提供します。

「みどり」と融合した  
生命力と活力あふれる  
都市空間

ひらめきや創造に  
つながる  
多様で寛容な場づくり

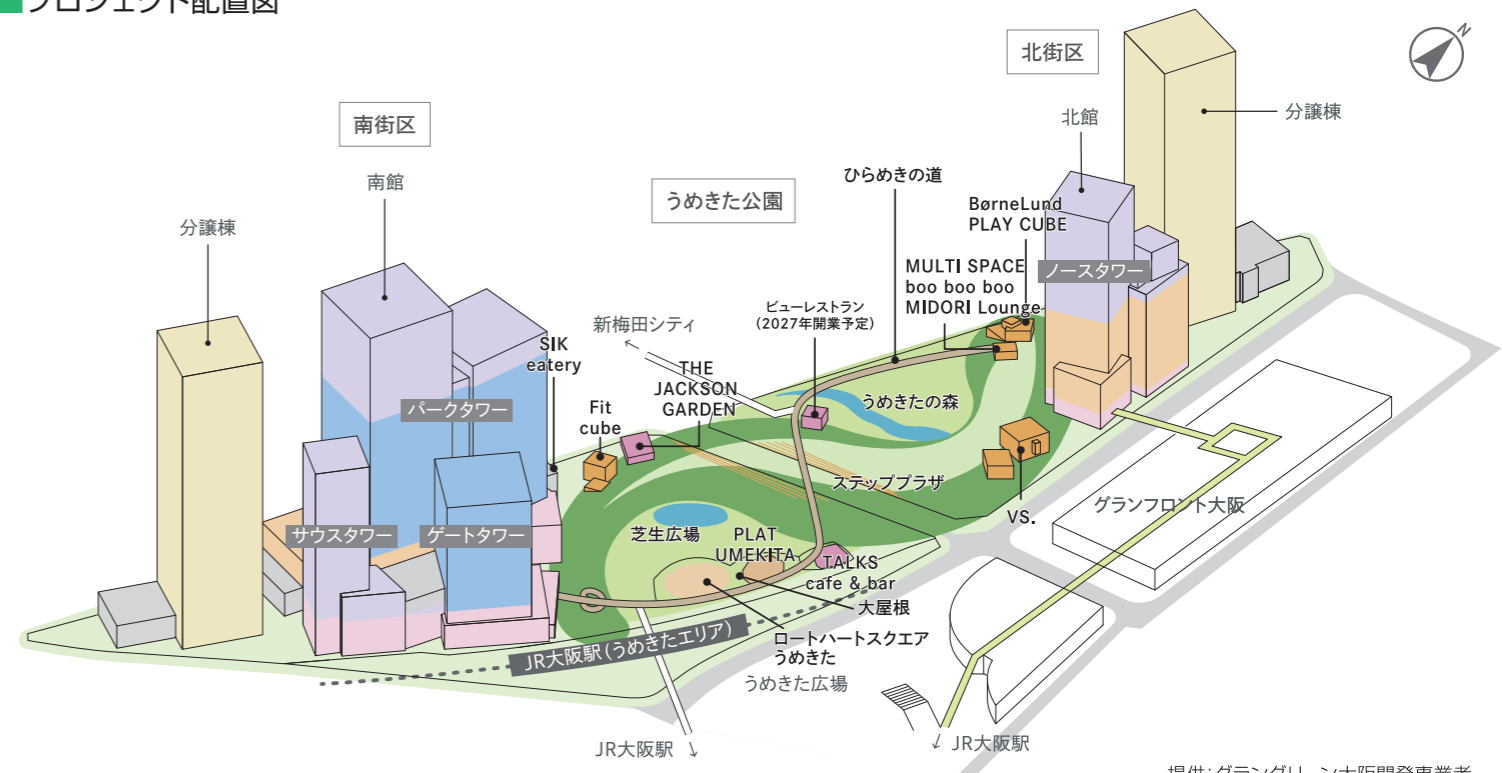
新たな価値が  
うめきたから関西へ、  
国内外へと広がるマネジメント

■計画概要



提供: グラングリーン大阪開発事業者

■プロジェクト配置図



提供: グラングリーン大阪開発事業者

※以上の提案概要は、事業企画提案の内容であり、事業の実施においては、今後の行政機関との協議により一部変更になる場合があります。